環境報告書 2024 年度

株式会社ユニバンス

もくじ

ごあいさつ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

環境理念・方針・目標 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

環境目標達成状況：環境事故件数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

環境目標達成状況：CO_2 排出量削減

カーボンニュートラル目標達成状況・活動推進体制 ・・・・6

プロジェクト活動：省エネ推進 Gr. ・・・・・・・・・・・・・・・・・7

設備省エネ推進 Gr. ・・・・・・・・・・・・・・・・・8

再エネ導入 Gr. ・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

その他の Gr. ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

技術による環境への貢献 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

地域への貢献 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

ごあいさつ

会社代表メッセージ

失敗と挑戦を繰り返しながら成長し、
環境保全に貢献するユニバンスを目指します

代表取締役社長　髙尾　紀彦

当社は今年で創業 87 年。その間、戦争や震災、高度経済成長や経済・金融危機、自動車メーカーの系列解体、グローバル化など、大きな出来事や変化の波に直面し、その都度、創業の精神「常に今よりも高きものに」を胸に、自らを変化させ、挑戦を続けてきました。

そして、CASE、MaaS といった概念が提唱され、自動車業界が大きな変革期を迎えている今、当社も大きく変革するため、「Vision2030」を掲げ、「ものつくり」を通じた「ことつくり」で社会に貢献しようと挑戦しています。

Vision2030 の取り組みの中には「社会的課題の解決」があり、環境保全はその重要課題の一つである考えます。そのアプローチとしては、企業活動のなかで省エネ、省資源を進め、環境負荷物質の排出を抑えるだけでなく、駆動系専門メーカーとして環境保全に貢献する商品の開発に取り組む、あるいは新規事業として環境保全につながる商品やサービスを生み出すなど、さまざまなものがあると思います。

いずれも簡単にできることではありませんが、だからこそ挑戦しがいがあると考えます。

たとえ失敗しても、その失敗を糧にさらに挑戦を続け、昨日より今日、今日より明日と、少しずつ成長していくことで、環境保全をはじめとした社会的課題の解決につなげ、すべてのステークホルダーの皆さまに対する責任を果たしてまいります。

環境責任者メッセージ

環境に優しい「ものつくり」を追求し、
環境保全活動を推進します

環境管理責任者　望月　孝之

当社は環境方針として、将来世代へより良い地球環境を引き継ぐため、環境に優しい「ものつくり」を追求し、企業活動と地球環境の調和を図ることを掲げております。

具体的な活動としてカーボンニュートラルの達成に向け、CO_2 を排出しているエネルギーを『減らす』『創る』『変える』に取り組んでおります。

直近では省エネルギー設備への切り替え、製造工程でのロス削減による CO_2 削減、再生可能エネルギーへの切り替えを一部実施しました。2030 年度カーボンハーフの達成も視野に入ってきました。

今後は技術開発、サプライチェーン全体でのカーボンニュートラル活動を実施し、持続可能な社会の実現に寄与したいと考えております。皆様のご理解とご協力をお願い致します。

環境理念・方針・目標

環境理念

株式会社ユニバンスは、環境保全が人類共通の最重要課題の一つであると認識し、企業活動のあらゆる面で地球環境の保全に配慮して行動します。

環境方針

当社グループは、
将来世代へより良い地球環境を引き継ぐため、環境に優しい「ものつくり」を追求し、企業活動と地球環境の調和を図っていきます

1　ルールを守り、地球環境に配慮した企業活動を行います
2　資源、エネルギー等の使用を最小限にします
3　環境リスクを抽出し、未然防止を継続的に行います

2023 年度環境目標

- 重大環境事故件数　：　目標　0 件
- 軽微環境事故件数　：　目標 28 件
- カーボンニュートラル

  CO_2 排出量削減（省エネ分）　目標：　404 t

  CO_2 排出量削減（全社合計）　目標：　1,200 t

環境目標達成状況：環境事故件数

重大・軽微環境事故

2023 年度環境事故目標

重大環境事故　目標：　0 件　»　実績　0 件　OK!

軽微環境事故　目標：28 件　»　実績　27 件　OK!

当社では、環境側面・環境影響評価を実施し、環境リスクの抽出を自ら行い、環境事故の未然防止活動を実施しています。

また、事故を未然に防止するためには、まず異常な状態に気づく必要があります。そこで、環境教育、環境緊急事態対応訓練、設備点検、各種環境セミナーへの参加等、さまざまな取り組みを通じて異常に対する感度を高めるよう務めています。

環境ニュースは、ポジティブ・ネガティブに関わらず社内情報を中心に掲載

夜間の地震発生による停電を想定した訓練。非常灯の確認、熱処理設備電源オフ、避難経路確認、熱処理炉のアラーム確認等。実際に夜間に訓練すると、多くの課題が見えてきました

ボイラー運転時に異常燃焼を発見したという想定で、手順に従って対応し、安全に退避する訓練を実施。異常燃焼は重大な事故につながる現象であるため、しっかり対応する必要があります

CDP「気候変動レポート 2023」でユニバンスは「C」スコア

当社は、英国の慈善団体が管理する環境非営利団体である CDP（Carbon Disclosure Project）に対して情報を開示しています。昨年度、CDP が公表した「気候変動レポート 2023」において、当社のスコアは「C」でした。これは、8 段階中の 5 段階目にあたり「自社の環境リスクを認識している」と評価されたことを示すものです。

当社は今後も情報開示をしつつ、より高いスコアを目指してまいります。

環境目標達成状況：CO_2排出量削減

カーボンニュートラル目標達成状況

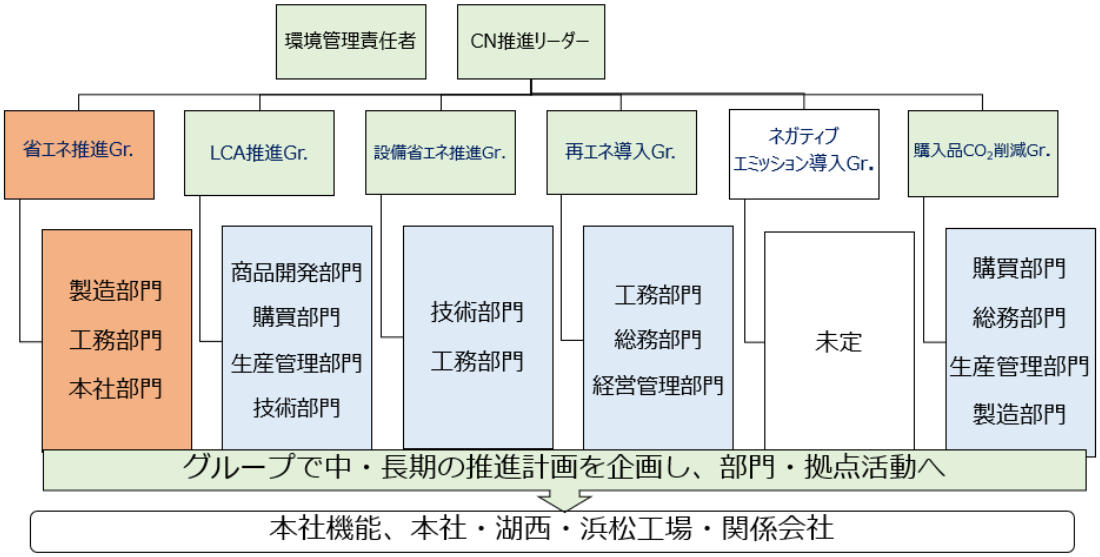
2023 年度 CO_2 排出量削減

（省エネ分）目標：　404 t ≫ 実績：549 t　OK!

（全社合計）目標：1,200 t ≫ 実績：※3,600t　OK!

※生産量を勘案して CO_2 排出量を割り出した数値

カーボンニュートラル活動推進体制



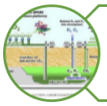
プロジェクト活動

2023 年度より、省エネ推進 Gr. の活動から先行スタートしています。

省エネ推進Gr.
（既存工場の省エネ）

再エネ導入Gr.（エネルギービジョン）

LCA推進Gr.
（LCA活動による製品省エネ）



ネガティブエミッション導入Gr.
（CO_2回収・植林等）

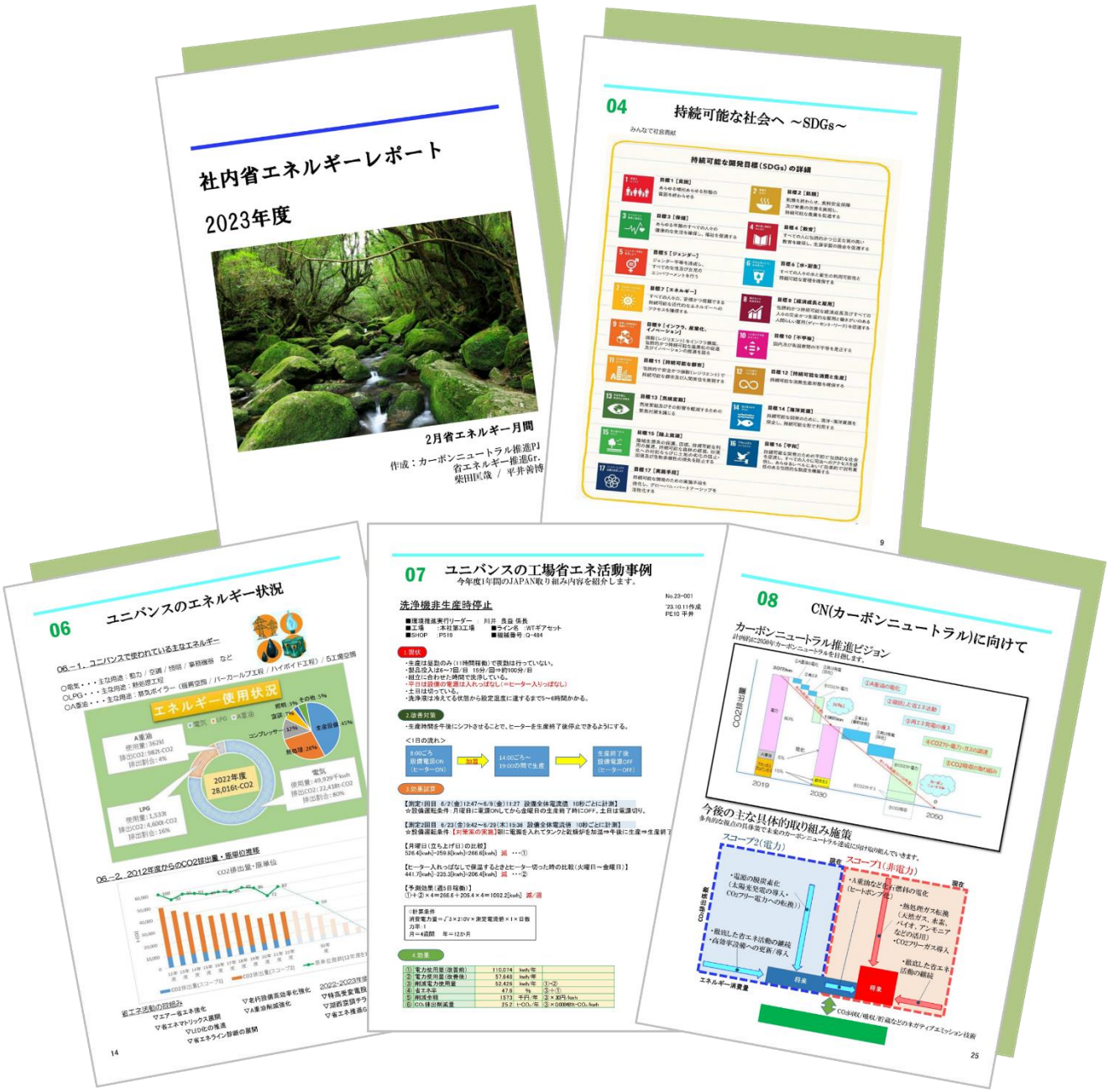
設備省エネ推進Gr.
（新規導入設備による省エネ）

購入品CO_2削減Gr.
（SCOPE 3《間接排出》の削減）

省エネルギーレポート発行

省エネ推進 Gr.は、現在の工場の省エネ活動を推進しています。

23 年度活動では省エネルギーレポートを創刊し、省エネとは何か、から始まり、具体的に何をすることが省エネにつながるのか、社内での活動事例等を紹介し、従業員一人ひとりが省エネ意識を持ち、省エネにつながる行動を取るよう促すことを目指しました。



超高密度大気圧プラズマ装置導入による CO_2 排出削減

設備省エネ推進 Gr. は、新規設備を導入することで省エネを進めています。

今回は塗装下地処理として、ドライ脱脂「超高密度大気圧プラズマ」製法を導入した事例をご紹介します。油分が残っていると塗料が付着しにくいため、塗装前に製品を脱脂洗浄する工程での改善です。

【Before】

洗浄機の昇温：**温度 80℃**

洗浄機の昇温：**強アルカリ液（pH 13）**

洗浄後、塗料を密着させるためエアブローで洗浄液を除去。

課題 ▷▶▶

・脱脂するためには高温の洗浄液でなくてはならず、加温・保温エネルギーが多大

・製品全体を洗浄液につけるので塗装しない部分ではサビが発生して品質に影響が出る

・強アルカリ洗浄液（pH 12.5 以上）は特別管理産業廃棄物の汚泥が出る

超高密度大気圧プラズマ装置を導入

【After】

洗浄機の昇温：**温度 60℃**

洗浄機の昇温：**弱アルカリ液（pH 9.9）**

塗装する部分の塗料を接着させるため、超高密度大気圧プラズマ製法で油汚れを除去。

メリット ▷▶▶

・ドライ脱脂「超高密度大気圧プラズマ」製法により、80℃だった洗浄液の温度を 60℃以下に低下でき、加温・保温に使うエネルギーを削減できた

・アルカリ濃度の低い洗浄液に変更し、**特別管理産業廃棄物をなくす**ことで環境負荷削減ができた

・塗装する部分のみを狙って脱脂し、防錆する油分を残すことができた

・塗装しない部分ではサビの発生を防ぐことができ、品質向上ができた

加温・保温に使うエネルギーを削減したことで……

CO_2 排出量　26%削減

再エネ導入 Gr. は、CO_2 フリー電気など、再生エネルギーを導入することで CO_2 排出量削減を推進しています。

静岡 Green でんき

当社は 2021 年 9 月より本社事務所棟の電力を、中部電力ミライズ株式会社様が提供する「静岡 Green でんき」に切り替えました。

これは静岡県内の水力発電所に由来した CO_2 排出ゼロの電気であり、「電気の地産地消」とも言えるもので、脱炭素ばかりでなく地域貢献にもつながります。

静岡Greenでんき
購入契約証明書

企業名	株式会社ユニパンス
需要場所	本事業所
所在地	静岡県湖西市鷲津２４１８
購入予定期間	2024年4月～2025年3月
購入予定電力量	供給する電力の全量

本書は中部電力ミライズ株式会社の販売する、静岡県産※1ＣＯ$_2$フリー電気※2「静岡Ｇｒｅｅｎでんき」の購入契約を締結いただいていることを証明するものです。

「静岡Ｇｒｅｅｎでんき」をご購入いただくことにより、お客さまのＣＯ$_2$排出量削減とともに再生可能エネルギーの普及拡大に貢献いただきます。

静岡県産CO2フリー電気を使用
静岡 Greenでんき
powered by 中部電力ミライズ

中部電力ミライズ

２０２４年4月1日
中部電力ミライズ株式会社
静岡営業本部長　佐野　純也

※1 「静岡県産」とは、中部電力ミライズが供給する電力量のうち、静岡県内の水力発電所等で発電された電気が、供給年度の電源構成（計画値）上、100%割り当てられる予定であることから、静岡県由来であることをいいます。

※2 「CO$_2$フリー電気」とは、環境省および経済産業省によって毎年公表される「電気事業者ごとの基礎排出係数及び調整後排出係数の算出及び公表について（改正された場合は、改正に従う。）」に従いメニュー別排出係数を算定したとき、当該排出係数がゼロとなる電気をいいます。

そのほか、さらに再生エネルギーの導入を進めるべく、さまざまな可能性を模索してします。

LCA 推進 Gr.

LCA 推進 Gr. は、LCA 活動により製品の省エネ化を進めています。LCA（LCA：Life Cycle Assessment）とは、製品の資源採取から原料調達、製造（加工・組み立て）、流通、製品使用、さらには廃棄・リサイクルまでのライフサイクル全体における環境負荷を定量的に評価する手法のことです。

CO_2 総排出量測定を全社の仕組みに組み込むため、今後システムを構築すべく検討を進めています。

購入品 CO_2 削減 Gr.

購入品 CO_2 削減 Gr. では、間接的な CO_2 排出量を削減する取り組みを進めます。

企業はその企業活動すべてにおいて CO_2 排出量を削減することが求められています。自社が直接排出するものだけでなく、お取引先さまが当社に納品される製品の原料調達や製造、輸送などの際に排出する CO_2 を削減することは、非常に重要な取り組みです。

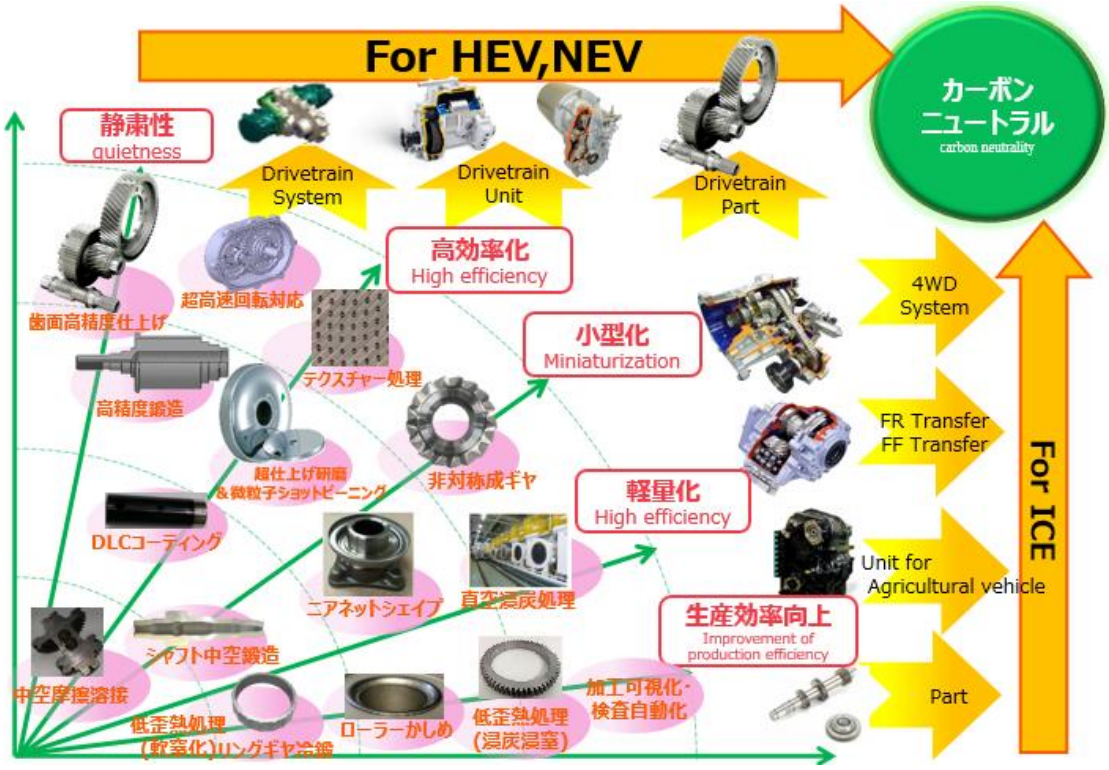
ネガティブエミッション導入 Gr.

ネガティブエミッション導入 Gr. は、カーボンニュートラル達成のため、大気中の CO2 を回収・吸収するネガティブエミッション技術の導入を図ります。

具体的な施策は今後検討していきます。

技術による環境への貢献

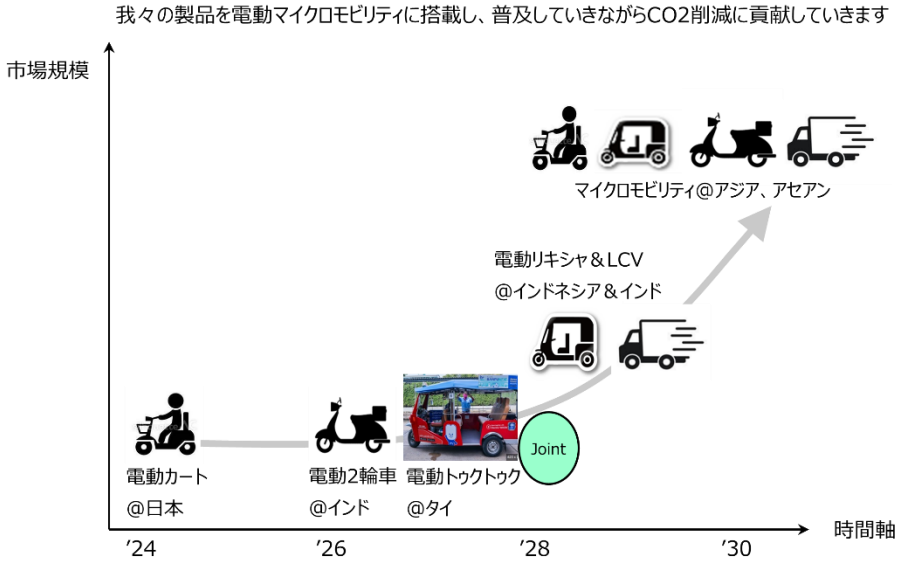
内燃機関（ICE）車、電動車共にパワートレインユニットに求められることは、タイヤにムダなく、必要な時に必要な分の最適な駆動力を伝達させることです。そのために環境性能と走行性能を両立させる基盤・要素技術開発と、それらをベースとした製品開発に取り組んでいます。



新セグメント用電動ギヤボックス開発

モビリティ市場は、便利で効率的、かつ持続可能な交通ソリューションに対する需要の高まりにより、急速に成長しています。

そこで、私たちは電動アクスルのシステムサプライヤーとしての技術獲得を推進し、新セグメントをターゲットにニーズ探索を行いながら、豊富なバリエーションに対応できる高効率な駆動性能を有するギヤボックスやパワーユニットを開発していきます。



要素技術開発

燃費・電費に貢献する要素技術開発に取り組んでいます。

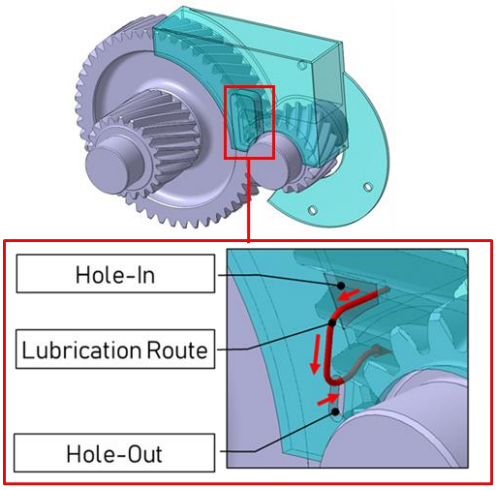
1. 高速回転歯車の潤滑に関する取り組み

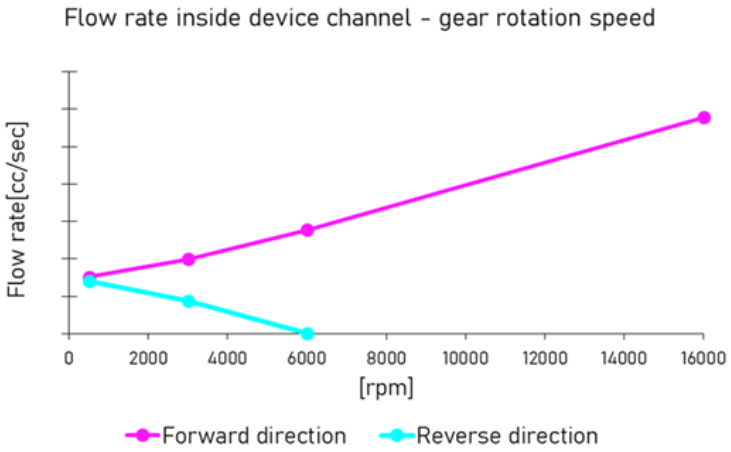
高速回転化する電動ギヤボックスにおいて、従来の潤滑方法に対しエネルギーロスの小さい潤滑方法を研究・開発しています。

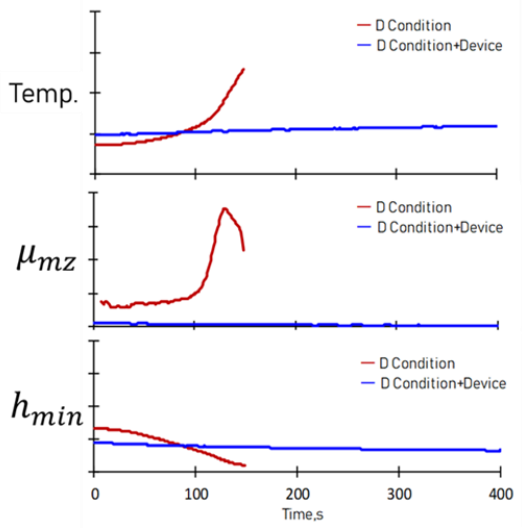
研究元年となる 2021 年には「歯面における油の挙動と気流の関係について」をテーマに、油の噴射からギヤ歯面に到達するまでの流れと、歯面付着後の挙動および気流の関係について確認しました。

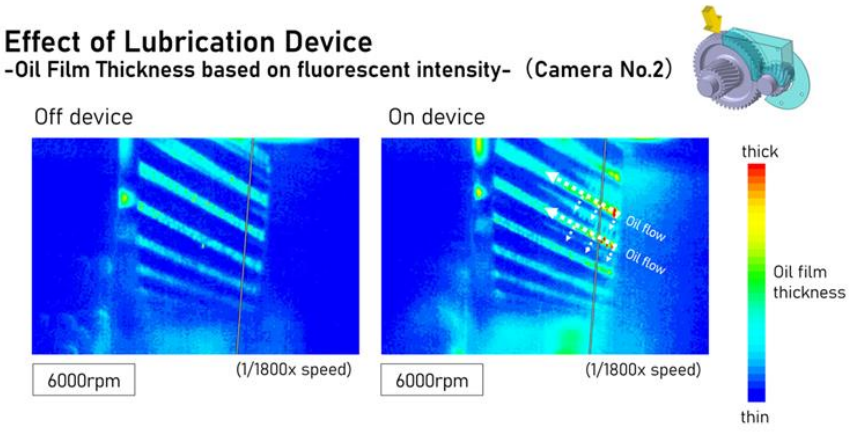
翌年の 2022 年には「貧潤滑環境下における歯車の温度上昇について」をテーマとし、歯面温度上昇には、伝達動力、回転速度、熱容量等に大きく影響を受けることが分かりました。

そして、集大成となる 2023 年には「効率的歯面潤滑方法の事例提案」というテーマにて、冷却効率の高くエネルギーロスの小さい潤滑方法の一例を提案することができました。（特許出願済）





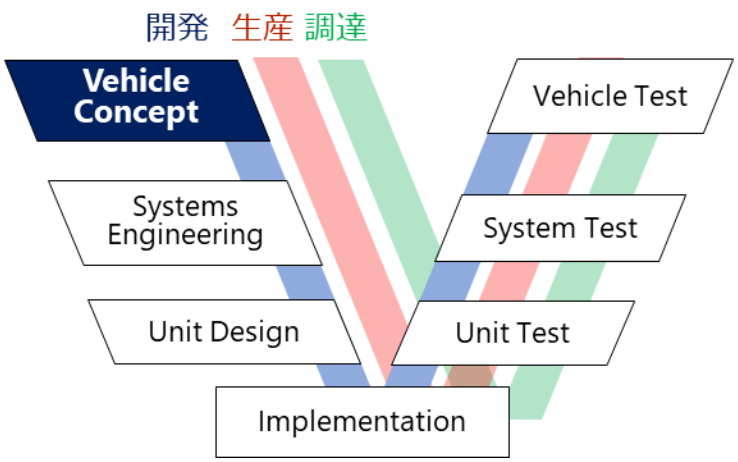




開発効率化

近年、電動化への対応、ICE 適用の継続等、私たちが開発する駆動系の商品群は多様化傾向にあります。そのため、一つひとつのプロジェクトを手戻りなく、かつ効率的に進行していく必要があります。

これらに対応すべくモデルベース開発(MBD)に取り組んでおり、開発初期段階における設計精度向上のため、各種シミュレーションを駆使しています。



また、開発部門と技術部門間でどのような技術を確立し、商品へ織り込んでいくか徹底的にすり合わせを行うことで、短期間で目標達成できる開発を現在推進しています。

私たちユニバンスは、これからも技術を通じてカーボンニュートラル実現に向けて貢献してまいります。

地域活動への取り組み

ユニバンスでは環境方針に掲げた

・環境保全活動に、協力企業を含めた全ての組織・全ての社員が参画し、継続的な改善を図ります。

・良き企業市民として、地域社会を充分配慮した企業活動に努めます。

の実践に取り組んでいます。これらの活動を通じて、地域の皆さまに親近感を持っていただけるような、従業員が自社に誇りを感じることができるような企業を目指します。

湖西市河川水質調査・水生生物観察会・こさい環境フェア

2023 年 7 月 27 日（木）、湖西環境保全協議会で毎年実施している河川の水質調査と、水生生物観察会に会員企業として参加しました。

水生生物観察会には湖西市の小学生やその保護者の方も参加し、生物多様性についてともに考える機会にもなりました。

水質調査の結果は、9 月 16 日（土）にボートレース浜名湖で開催された「こさい環境フェア」の湖西環境保全協議会ブースにて報告されました。

同ブースでは、水のろ過装置のデモンストレーションを行い、水をきれいにする過程も体験していただきました。

浜名湖クリーン作戦／古見川きれい作戦

2023 年 6 月 4 日（日）開催の「浜名湖クリーン作戦」に 19 名が、10 月 28 日（土）開催の「古見川きれい作戦」に 18 名が参加するなど、地域で開催されるクリーン作戦に積極的に参加しています。

こさい花いっぱい運動

湖西市の「こさい花いっぱい運動」に参加し、本社工場正門周辺に花を植えています。

また、本社工場正門横のロックガーデン調スペースでは、就労継続支援事業所（B型）・浜名学園なぎさ作業所で生産された花苗を購入し、植えています。

静岡県グリーンバンク

当社は公益財団法人「静岡県グリーンバンク」に賛助会員という形で参画しています。

静岡県グリーンバンクは、静岡県に緑を増やすため、花の種や苗木等の提供、緑化ボランティアの育成、森を豊かに守ることを応援する「緑の応援団」とも言える団体です。

当社は静岡県グリーンバンクの考え方に賛同し、2023 年に入会しました。

株式会社ユニバンス

環境報告書 －2024 年度－

2024 年 11 月発行